

過去から未来へ

災害の恐ろしさと自らの命を守るために

昭和42年8月28日。「羽越水害」が発生しました。

死者行方不明者90名、国道や鉄道などの交通網の途絶。家屋の流出、田畑への土砂堆積など、荒川流域全体に壊滅的な被害をもたらしました。



羽越水害とは

流域平均で雨量424mmの記録的な豪雨が、山形・新潟両県を襲ったのは、昭和42年8月28日のことでした。新潟県北部では、上層に北西からの乾燥した空気が入り、下層では南西からの湿った暖気が入り込む「対流不安定」と呼ばれる特異な大気の状態となりました。このため前線の活動が活発となり、新潟・山形両県に28日から29日にかけて記録的な集中豪雨が襲い、荒川流域の各所で堤防の決壊、土石流、がけ崩れ等を引き起こし、日本の災害史上に残る大惨事「羽越水害」となりました。

あれから50年。

荒川流域に甚大な被害をもたらした昭和42年の「羽越水害」から平成29年に50年の節目を迎えます。羽越水害から50年が経過し、その間、各種の防災対策が進み、人々の防災に関する意識が薄れて来ています。

一方、近年は気候変動が激化し、災害の危機性はさらに増しています。

50年目を契機に、羽越水害とその後の防災を振り返るとともに、現在直面している災害危機対応について、流域の人々と考える取り組みとして、「羽越水害50年記念事業(荒川水系)」を実施します。

主催者連絡先

主催／羽越水害50年記念事業(荒川水系)実行委員会

【構成】村上市、胎内市、関川村、小国町、新潟県村上地域振興局地域整備部・農林振興部、新発田地域振興局地域整備部、山形県置賜総合支庁建設部、国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所、飯豊山系砂防事務所、東北地方整備局山形河川国道事務所、新発田地域広域事務組合消防本部、荒川沿岸土地改良区、東北電力(株)、荒川水力電気(株)、赤芝水力発電(株)、新潟日报社

お問い合わせ先

羽越水害50年記念事業(荒川水系)実行委員会事務局(国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所調査課)
〒959-3196 新潟県村上市藤沢27-1 TEL:0254-62-6238 FAX:0254-62-1411

ホームページ

<http://www.hrr.mlit.go.jp/uetsu/contents/50th/index.html>

羽越水害 50

検索



語り継げ! 羽越水害 子に孫に

羽越水害50年記念事業